

令和4年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名：富山大学

代表学生：重山 隼人

指導教員：藪谷 祐介

<p>研究題目 (応募部門)</p>	<p>食で多世代をつなぐ、地域コミュニティの創出—畑と屋台を用いた協働を通して—</p>
<p>研究概要</p>	<p>高岡市吉久ではまちづくりの担い手の高齢化が進み、若者の参加が少ないことや空き地が多いことが課題である。そこで食が多世代をつなぐという仮説のもと、空き地を活用した畑での作物栽培と作った作物をまちなかで振る舞える屋台を地域住民と協働で制作・活用することで、高齢者と若者をつなぐことが可能か検証することを本研究の目的とする。本研究は参加者に対するアンケート調査とヒアリング調査から効果検証を行う。</p>
<p>これまでの活動状況と今後の活動予定 (300字程度)</p>	<p>フィールドワークを行い、対象とする空き地を選定し、「よしひさえん」と命名し、その場で様々な「食」の活動に取り組んできた。6月には、地域住民とレイズドベッド制作やサツマイモやトウモロコシの苗植えイベントを実施した。7月にも追加のレイズドベッド制作と6月に植えたトウモロコシの収穫イベントを地域住民と協働で行った。9月には苗植え・植えイベントを行い、続いてバーベキューを開催した。イベント間も、草刈りなどのよしひさえんの手入れを地域住民と協働で行った。これまでに、アンケート調査を計3回を行い、結果として、若者同士や子育て世代同士がつながったり、高齢層と壮年層がつながったりと、多世代のネットワークが構築されつつあることがわかった。今後は屋台制作イベントや焼き芋会などを予定している。</p>



6月実施の苗植え



7月実施のレイズドベッド制作



9月実施の苗植え